

《献上みかんの経緯》

昭和42年秋に徳仁親王殿下（現皇太子殿下）がお一人で浜松市細江町（旧細江町）にお成りになられたことを契機に、天皇陛下御一家は昭和43年から48年までの毎年と、52年、53年、58年の夏に当地で御静養され、奥浜名湖の恵まれた自然の中でお過ごしになりました。

御一家が9回にわたり当地においでになったのは、浜名湖にはハゼ、クロダイ等の魚が数多く生育していることから魚の御研究に好条件であったことや、都会では体験できない自然や地方の生活が三人のお子様の教育の場所としてお気に召されたのではないかとされています。

御一家は、御静養の際には住民とも気軽にお言葉を交わされ、併せて地元児童との御交歓を賜る光栄に浴しております。

また、昭和57年の歌会始めの儀において天皇陛下が新幹線の車窓から奥浜名湖を御覧になった印象をお詠みになったお歌を、御承認をいただいたうえで御歌碑として細江公園に建立いたしております。

このように、天皇陛下御一家に寄せる住民の親近感は大変深いものであり、昭和42年皇太子殿下が初めて当地にお成りになった際に農協選果場のご見学やみかん狩りを楽しまれたことから、静岡県が誇る温州みかんは昭和44年以降、白柳ネーブルは昭和57年以降毎年（昭和天皇御崩御の年を除く）献上いたしております。

【温州みかん】

一般に「みかん」と言われている日本の代表的な柑橘類で、皮が薄くてむきやすく、食べやすいのが特徴です。静岡県では、恵まれた気象条件等を活かして、毎年高品質の温州みかんを安定的に生産しており、特に代表的な品種である「青島温州」は、糖度が高く濃厚な味わいがあり、消費者に大変人気のある品種です。

【白柳ネーブル】

「ネーブル」は、世界の柑橘生産国におけるオレンジの主流品種であり、静岡県では西部地域を中心に施設化等により品質の高いネーブルを生産しております。中でも当地で生まれた品種である「白柳ネーブル」は、糖度が高く酸味が少ない上、他の品種に比べ大玉でも食味が劣らないのが特徴です。



【昭和42年11月16日撮影】